HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語のいくつかの基礎語彙の意味について (1)
Author(s)	佐藤, 知己
Citation	北海道大學文學部紀要, 45(1), 3-20
Issue Date	1996-08-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33669
Type	bulletin (article)
File Information	45(1)_PL3-20.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 45-1 (1996)

アイヌ語のいくつかの基礎語彙の意味について(1)

佐 藤 知 己

0．はじめに

アイヌ語の基礎語彙の意味研究は，服部四郎（服部 1969，1971）が樺太ライチシカ方言について行ったものが代表的なものであるが，他のアイヌ語方言についてもできるだけ同様な研究の行われることが望ましいと思われる。本稿は北海道南西部のアイヌ語方言の一つである千歳方言を取り上げ，いくつかの主として日本語の形容詞に相当する意味を表す語[1]についてインフォーマントの報告，用例に基づいた分析を用いてその意味を明らかにしようとしたものである。ここで使用した資料は，すべて千歳方言の話者であった白沢ナベ氏（1905-1993）によるものである。お名前を記し，深く感謝申し上げる。

1．大小を意味する語について

大小を意味する主な動詞には2種類ある。「大きい」を意味する動詞はporo，rupne，「小さい」を意味する動詞はpon，nokanである。

まず，poro，ponの例をみよう。

poro「大きい」の例：

(1) poro cep「大きな魚」

(2) poro cikap「大きな鳥」

(3) poro kamuy「大きな熊」
(4) poro kur「大きな人」
(5) poro nispa「大金持ち（偉い旦那）」
(6) poro suma「大きな石」
(7) poro inawcipa「大きな祭壇」
(8) poro cise「大きな家」
(9) poro kotan「大きな村」
(10) poro cip「大きな舟」
(11) poro saranpe「大きな布」
(12) poro karus「大きなキノコ」
(13) poro yam「大きな栗」
(14) poro enumi「大きなブルーベリーの実」
(15) poro aha「大きな土豆」
(16) poro hup「大きな腫れ物」
(17) poro suy「大きな穴」
(18) poro ape「大きな火」
(19) poro nupuri「大きな山」
(20) poro to「大きな沼」
(21) poro serkehe「大きな部分」
(22) poro tasum「重い病気」

pon「小さい」の例：

(23) pon menoko「少女」
(24) pon nispa「若い旦那さん」
(25) pirka pon seta「良い子犬」
(26) kane pon kasa「金の小さな笠」
(27) pon kotan「小さな村」
(28) pon kamuy「小熊」
(29) pon pewrep「小熊」

(30) pon katkemat「少女」

(31) ponpon usi　ne yakka pirkano owpekare　wa ye
小さい　場所 で も　　良く　　まっすぐだ て　言う
「細かい所もきちんと正確に言う」

(32) pon pet「小川」

(33) pon cironnup「小さな狐」

(34) pon tono「若い（弟の）殿様」

(35) pon cikuni sar「小さい木の薮」

(36) pon cikap「小鳥」

(37) pon enumi「小さなブルーベリーの実」

(38) pon aha「小さな土豆」

(39) iyotta pon hikehe「一番若い者」

poro は人間，動物に加えて，石のような物体，村，沼のような場所的意味を含む対象，また，家，穴，舟，祭壇のような，物体ではありつつも場所としての意味を含むような対象にも用いられる。その他，絶対的な大きさというよりはむしろ「大きな栗」，「大きなブルーベリーの実」のように「粒」の大きさを意味する例や，poro serkehe「大部分」のように「多い方」を意味する例もある。やや周辺的な用例としては，病気に対して用いた例がある。これはもちろん面積や容積の大きいことではなく，程度の大きいことを意味したものと考えられるが，他に同様な例のないことから一般的な用法ではない可能性もある。又，(5)も意味が特殊化している。

他方，pon も人，動物や動物，場所等に用いられるが，体の小ささだけでなく，年齢の若さを意味する例が多いようである。これは，poro がもっぱら体積，面積の大きさを意味することと差異を示しているようである。

「大きい」，「小さい」を意味する語としては他に rupne，nokan がある。

rupne「大きい」の例：

(40) rupne cep「大きな魚」

(41) rupne kamuy「大きな熊」

(42) rupne yuk「大きな鹿」

(43) rupne saranpe「大きな布」

nokan「小さい」の例：

(44) numihi nokan「粒が小さい」

(45) nokan hi ta「幼い時に」

rupne も「大きい」に当たる意味を表すが，poro より頻度数は少なく，しかも rupne cep，rupne kamuy，rupne yuk のように動物や魚などの獲物が大きいという表現で，決まり文句のように用いられた例が多い。生物以外に用いられた例外的な例としては，布に関して用いられた rupne saranpe のような例がある。しかし，一方でこれらの名詞に対して poro を用いた例もあり，rupne を用いた例との違いが問題となる。他方，nokan は例が少なく，確かなことが言える段階ではないが，単に小さいだけでなく，「非常に小さい」，「非常に若い（幼い）」のような意味があるようである。

poro と rupne の違いについては，まず，米粒に poro を使うとおかしく感じられる，というインフォーマントの報告がある。

(46) nepene numi rupne amam ne ruwe an（poro はおかしい）
何と 粒 大きい 米 である の だ
「なんて粒の大きな米だろう」

この例は，poro は基本的には絶対的な大きさを表す（大きな山）ということを示しているとも考えられる。これに対し，rupne は同種の中で大きい，という相対的な概念を主として表すという可能性がある（大きな米粒）。次の例も rupne の相対的な性質を示す例と言える。

(47) sansintoko a-ohare hine orowa, sakeyuskur sapa
酒桶　私-空け て　から　酒を注ぐ人 の頭
ekari　a-ekamure　kunine a-ekik　akusu, rupne
向かって 私-かぶせる ように 私-ぶつける と，　大きな
ko　ne nokan ko　ne, kone　wa oarisam
破片 に 小さな 破片 に 粉々になる て しまった
「酒桶を飲み干してから酒注人の頭にかぶせるようにぶつけると大小の破片になって割れてしまった」

ここでは，「破片」は一般に小さいものであるから，「大きい破片」という場合には poro　ではなく，rupne　を使っているわけであろう。

また，次のような例もある。

(48) rupne utar「大人」

この例では，「大人」というのは，別に絶対的に体が大きいわけではなくて，子供に比べて普通は体が大きいというだけだから，「大人」という意味では，*poro utar ではなく，rupne utar を使う，ということなのであろう。また，次のような例もある。

(49) pon rupne kur

もし rupne が絶対的な大きさを表すのであれば「小さい大きい人」となって明らかに矛盾であるが，「(体の小さな) 大人」と解すれば矛盾ではなくなる。

しかし，rupne が人間に対して用いられた場合，次のように「年取った」，「年上の」と解釈すべき例がある。

(50) a-pohoutari rupne hike
私の-子供達 大きい もの
「私の子供達のうちの年上の者」

(51) rupne mat「年を取った女」

(52) rupne kur「年を取った人」

インフォーマントによると，40歳を過ぎた人に対してならrupne matと言えると言う。

以上から，rupneには，「年を取った」，「(絶対的にはさほど大きくはないが)相対的に大きさが大きい」という二つの意味があると仮定する。また，nokanには「非常に小さい」，「幼い」という二つの意味を仮定する。これに対し，ponには「(絶対的または相対的に)小さい」，「(絶対的または相対的に)若い」の二つの意味を仮定するが，poroには基本的には「(絶対的，相対的に)大きさが大きい」という一つの意味を仮定する。これをまとめると次のようになる。なおも検討が必要であるが，これらの語が単純なporo：pon，rupne：nokanのような反義関係をなさない可能性があると思われる。

相対的に年上	rupne	相対的に年下	pon		
絶対的に年上	rupne	絶対的に年下	pon	幼い	nokan
相対的に大きい	rupne ～poro	相対的に小さい	pon		
絶対的に大きい	poro	絶対的に小さい	pon	非常に小さい	nokan

以上の考察から，rupne saranpeという表現は「大きい布」という意味であっても，「さほど大きくはないが，普通一般の布の大きさの基準からすると大きい部類に入る布」というニュアンスがあるのではないかと思われる。

しかし，次の例にみられるように，ある数のうちの「大部分」、「一部分」という相対的な表現にporo，ponが用いられることもある。もっとも，相対

的とはいえ,「絶対的に数が多い」ということを含意しているので poro を用いていると見ることもできるかもしれない。

(53) oka utar poronno poro serke soyenpa p ne kusu,
いる 人々 たくさん 大 部分 出た もの だ から
pon serkehe cise ot ta oka
小 部分 家 中 に いる
「いた人々が大勢で大部分が外に出たので少数だけ家の中にいる」

(54) (ni epuy) poro serkehe eciraske
木の花 大 部分 咲いた
「木の花の大部分が咲いた」

なお,以上の議論には直接関係ないが,「大きい」,「小さい」を意味する表現について気の付いた点を補足すれば,日本語では,音や声に関して大きい,小さいという言い方をするが,アイヌ語では大きい,小さいではなく,「激しい」,「弱い」に近い表現を用いるのが普通である。

(55) mina hawe wenruy
笑う 声 激しい
「笑い声が大きい」

(56) eytasa eci-hawehe ruy na
あまり おまえたち-声 激しい ぞ
「あまりおまえたちの声が大きいぞ」

(57) ponno hawkeno itak an (<yan)
少し 静かに 話す なさい
「少し静かに話しなさい」

2.「広い，狭い」を意味する語について

面積が広いという場合，poro が使われている例がある。

(58) nepene poro nup ne ruwe an
何と 大きい 野原 である の だ
「何て大きな野原だろう」

(59) arecuppok ta poro to an
西の果て に 大きな 湖 ある
「西の果てに大きな湖がある」

(60) neun poro saranpe ne yakka
どう 大きい 布 で も
「どんなに大きな布でも」

面積が広いという意味では sep も用いられる。

(61) tan cise nepenepo sep cise onnay ne ruwe an
この 家 何と 広い 家 中 である の だ
「この家はなんと広い家だろう」

(62) onnayke ne yakka sep cise
中 で も 広い 家
「中も広い家」

これに対し，面積が狭い場合には hutne を使う。

(63) nean hutne usi ta akkari sep usi ta
その 狭い 場所 で より 広い 場所 で

arki wa kar an
来る て 作る なさい
「そんな狭い場所でよりもっと広い場所に来て作りなさい」

(64) tan heya hutne ruwe an
この 部屋 狭い の だ
「この部屋は狭いなあ」

「幅が広い」という意味では sep を使う。

(65) tan ru nepene sep no a-kan ruwe an
この 道 何と 広 く 人-作る の だ
「この道は何と広く作られているのだろう」

(66) tan pet nepenepo, sep ruwe an
この 川 何と 広い の だ
「この川は何て広いのだろう」

「幅が狭い」に対しては hutne が使われるが，ane「細い」を用いた例もある。

(67) tan ru anakne hutne ru ne wa
この 道 は 狭い 道 だ よ
「この道は狭い道だよ」

(68) ane ru「細い道」

さらに多くの用例によらなければ勿論確かなことは言えないが，少なくとも上の例からうかがえるのは，「広い」を意味する語の方が「狭い」を意味する語より語の用法の区別が複雑だと言うことである。すなわち，「幅が狭い」，「面積が狭い」いずれに対しても hutne が用いられるのに対し，「広い」を意味する語には poro，sep の二つがあり，sep は「面積が広い」，「幅が広い」両

方の意味で用いられるが，「面積が広い」という意味では sep は用法に制約があって，主語に onnayke「中」のような位置を表す名詞を必要とするようである[2)]。これに対し，「広い」を意味する poro には，このような位置名詞を要求するという制約がない。

3．「深い，浅い」を意味する語について

「深い」を意味する語には oohoy，rawne，orawne の三つがある。

まず，インフォーマントによると，oohoy は川について言うという。川，沼などの水の深いところを oohoy と言うと。

(69) oohoy hattan ne ruwe an
深い 淵 である の だ
「深い淵だなあ」

(70) sikottoho anakne, oohoy wa a-pakari ka eaykap
支笏湖 は 深い て 人-計る も できない
to ne yakaye
湖 である そうだ
「支笏湖は深くて計ることもできない湖だそうだ」

また，川，陸の穴が深いということは，rawne を用いても言える。

(71) tan pet anakne...rawne wa petkasuy ka eaykap
この 川 は 深い て 川を越す も できない
「この川は深くて川を渡ることもできない」

(72) nepene rawne suy ne ruwe an
なんと 深い 穴 である の だ
「なんて深い穴だろう」

一方，池，湖については orawne が用いられる。ただし，川については orawne は少しおかしいと。

(73) nepene orawne ike ne ruwe an
なんと 深い 池 である の だ
「なんて深い池だろう」

(74) sikocuko anakne, orawne wa a-pakari ka
支笏湖 は 深い て 人-計る も
eaykap wa an to ne yakaye wa
できない で いる 湖 だ そうだ よ
「支笏湖は深くて人が計ることもできないでいる湖だそうだよ」

?(75) orawne pet「深い川」

穴に関しては，rawne, orawne いずれも用いられる。もっとも，orawne と言えば，陸の穴のようなものについて，のぞいても底が見えないような場合に言う言葉だという。なお，rawne については，「かるがるとした」言い方であり，穴があんまり深くなければ rawne を使う，という説明もしている。

(76) tan suy rawne suy ne ruwe an
この 穴 深い 穴 である の だ
「この穴は深い穴だなあ」

(77) (suy) orawne. a-kohehewpa yakka asama a-nukar
穴 深い 人-のぞく も 底 人-見る
ka eaykap
も できない
「穴が深くてのぞいても底が見えない」

また，orawne は，穴ばかりでなく，指を突っ込んでも深くてよく洗えないような茶碗についても言うという。

(78) tan cawan orawne kaspa ruwe an
この 茶碗 深い すぎる の だ
「この茶碗は深すぎるなあ」

これを要するに，oohoy は水の深いこと，orawne は通常，水のない穴のようなものについて言うが，水があっても穴か，穴のように奥行きのあるものとしてとらえられるもの（湖，池，茶碗）については使えるということのようである。この場合，川は穴のような奥行きのあるものの一種とは普通は考えにくいので，orawne が使いにくいということではないかと思われる。他方，rawne は例が少ないので確かなことは言えないが，水の有無に関係なく，基準面から底までの距離が長い，という意味で使用されているようである。従って，穴状のものばかりでなく，川に関しても使用が可能であるのだと考えられる。

「浅い」を意味する語には ohak，kasre，okasre の三つがある。

まず，ohak は，川について用いることができる。川の水が少ししかなくて底が見えているような場合について，以下の例が得られた。

(79) tanto arikinne pet ohak ruwe an
今日 本当に 川 浅い の だ
「今日は本当に川が浅いなあ」

（ただし，この例は，ohak「浅い」と言わないか，とこちらから言って思い出されたものである。）

kasre は沼，穴について言える。

(80) kasre to ne wa
浅い 沼 だ よ
「浅い沼だよ」

(81) tan suy kasre suy ne ruwe an
この 穴 浅い 穴 である の だ
「この穴浅い穴だなあ」

しかし，kasre pet「浅い川」とは言えないようだ，おかしいと。

?(82) kasre pet ne ruwe an
浅い 川 である の だ
「浅い川だなあ」

川が浅いと言う場合には，okasre を用いると。

(83) okasre pon pet ne wa（家の裏を流れている小川を指して）
浅い 小さい 川 である よ
「浅い小さい川だよ」

また，茶碗が浅いという場合にも okasre を用いると。

(84) okasre cawan ne ruwe an
浅い 茶碗 である の だ
「浅い茶碗だなあ」

これらの例だけではなんとも言えないが，「浅い」の場合，主として kasre, okasre の二つが主に用いられるようである。しかも，「深い」の場合には kasre の反義語と思われる rawne が川について用いられたのに対し，「浅い」には kasre が用いられず，川にも茶碗にも，orawne の反義語と思われる okasre が用いられるという，「深い」の場合とは対応しない結果になっている。つまり，「深い」では oohoy，rawne，orawne の三つが類義語として共存しているような状態であるのに対し，「浅い」では事実上 kasre，okasre の

二つしか用いられない[3]。このことは，「広い，狭い」を意味する語に関して，「広い」を意味する語彙が「狭い」を意味する語彙より相対的に複雑な構造（類義語の数が多い）を示していることを思わせる。これは「狭い」も「浅い」も否定的な概念を含んでおり，多様な概念を区別しにくい，というような一般的な理由に起因するものかもしれないが，さらに研究を要する。

4．「長い，短い」と「高い，低い」を意味する語について

長い，短いはおおむね日本語の「長い，短い」と同じような対象に対して用いられる。

(85) a-otopi　tanne ruwe
あなた-髪 長い　の
「あなたの髪は長いなあ」

(86) nepenepo tanne tus ne　ruwe an
何と　長い　紐　である の　だ
「何と長い紐だろう」

(87) cikiri tanne uma ne
足　長い　馬　だ
「足の長い馬だ」

(88) hemanta tus enepo takne ruwe an
何　紐　こう　短い　の　だ
「なんでこの紐こんなに短いのか」

(89) eci-otopi　takne korka, k-otopi tanne wa kusu
おまえたち-髪 短い　けれど 私-髪　長い　て　ので
「おまえたちの髪は短いが，私の髪は長くてそのために」

しかし，次のように日本語の「長い」に対して，「高い」にあたる語を用いる例も稀にある。

(90) tan cikuni, ayehe ri ruwe an
この 木 とげ 高い の だ
「この木，刺が長いなあ」

もちろん，日本語の「高い」に相当する例もある。

(91) toan nupuri nisor'eus kane ri nupuri
あの 山 空に刺さる ている 高い 山
poro nupuri ne ruwe an
大きい 山 である の だ
「あの山は空に届く程高い山，大きい山だなあ」

また，微妙に日本語と違っている例もある。次の例はいずれもそのままでは日本語では言いにくい。「高い木」は言えるが，「木が高い」はやや言いにくいし，「草が高い」はもっと許容度が低いかもしれない。

(92) cikuni ka ri
木 も 高い
「木も背が高い」

(93) eytasa mun ri wa kusu ku-tuypa
あまり 草 高い て そのため 私-切る
「あまり草の丈が高くてそれで私は切った」

人間の場合には kewe ri「背が高い」という表現がある。

(94) toan kun nepenepo kewe ri ruwe an
あの 人 何と 背 高い の だ
「あの人，何て背が高いのだろう」

これまでの「高い」の例では，人や物体の垂直方向の大きさ（長さ）が問題であったが，日本語の「高い」にはこのような用法の他，物体の位置を示す用法がある。たとえば「高い枝にウグイスが止まっている」のような例である。これに類似した表現はアイヌ語にもある。

(95) tane cup ri　na.　hopunpa yan
今　日　高い よ　起きる　なさい
「もう日が高いよ。起きなさい」

ただし，これは「太陽」のような天体に固有の，やや特殊な用法である可能性があり，他の場合には rikun，rik ta のような別の表現が用いられる。これらは「高い，低い」よりも「上の，下の」という意味とした方が適切かもしれない。

(96) rik un　suy
上　ある 穴
「煙出し窓」
(97) rik un　tupepi
上　ある 紐
「(笠の) 上の方についている紐」
(98) rik ta an-an　i　eramuan
上　に 私-いる こと わかる
「上に私のいることがわかっていた」

「低い」は ram だが，人間の場合には kewe pon「背が低い」という表現がある。

(99) nepene ram nupuri ne　ruwe an
何と　低い 山　である の　だ

「何と低い山だろう」

(100) eytasa kewe pon kun ne ruwe an
あまり 背 低い 人 である の だ
「あんまり背が低い人だなあ」

「位置が低い」場合には，rik un に対応する表現として ranke がある。

(101) ranke tupepi
下の 紐
「(笠の) 下方についている紐」

5．おわりに

以上，不十分ながら見てきたように，基礎的で日本語と近い意味を持っているかに見える語彙でも，よく見ると必ずしも用法が平行的でないことがわかる。また，反義語，類義語の体系も，食い違っている点が少なくない。このような観点から，これまで収集された資料を分析し直し，それに基づいてさらに現存のアイヌ語の話し手の内省的報告を収集し続ける必要性がまだまだあるように思われる。本稿はもとより極めて不完全なものであるが，そのような方向性を意図したものである。

註

1）アイヌ語では，日本語の形容詞に相当する語は動詞と同様の活用を行うので，動詞として扱うのが普通である（田村 1988：18)。

2）平取町在住の上田とし氏(1912 年平取町ペナコリ生)によると，日本語の「広い」，「狭い」と異なり，sep，hutne は紙の大小についても用いられるとのこと。

例：tan kanpi hutne na. na sep kanpi en-kore
「この紙は小さい。もっと大きい紙をくれ。」

3）国広（1982：180）は，フランス語に「深い」はあるが，「浅い」は欠けているという

事実に言及している。

参考文献

服部四郎．1964．『アイヌ語方言辞典』．東京：岩波書店．

_____．1968．『英語基礎語彙の研究』．東京：三省堂．

_____．1969．「アイヌ語の《大》《小》《太》《細》等々を表す〝形容詞〟」．『国語研究』28．（『服部四郎退職記念論文集』．私家版．75-86．）

_____．1971．「アイヌ語の《熱》《温》《冷》《寒》などを表わす〝形容詞〟」．『金田一博士米寿記念論集』．東京：三省堂．805-20．

国広哲弥．1982．『意味論の方法』．東京：大修館書店．

田村すゞ子．1988．「アイヌ語」．亀井孝他(編)．『言語学大辞典世界言語編』1．東京：三省堂．6-94．